

# 成長するマレーシアの経済環境

マレーシア投資開発庁 (MIDA) 大阪事務所 所長 アフザニル MD アヌア 氏

2019年2月15日(金) 2018年度国際委員会の講演要旨

## ■MIDAの紹介

MIDAはマレーシアへの投資促進を担っている政府機関で、国内および海外の企業がマレーシアに投資する際の窓口になる。



我々の活動には、①国外からの投資の促進、②製造ライセンスや税制の優遇措置などの審査、③政府の諮問機関としての役割、そして④個別案件のモニタリングを通してマレーシアに投資を考えている企業の支援、の4つの柱がある。

日本にも東京と大阪の2か所に事務所を構え、大阪事務所は中国・近畿・九州・四国の各地方をカバーしている。

## ■投資戦略とインセンティブ

昨年5月に政権交代があったが、現政権でもビジネスにフレンドリーな政策を継続している。

まず、投資政策では、製造業と他の特定サービス分野において外資100%の企業が認められている。企業所得の送金に関しても制約はない。国外からの就労者についてもキーポスト（期間限定なし）とタームポスト（期間限定）の2つがあり、就労しやすい環境にある。

次に、税制上の優遇措置では、パイオニア・ステータスという70~100%の法人税の免除や投資金額に応じた税額控除、再投資に係る税額控除、輸入関税免除等のインセンティブがある。

投資戦略の方向性については、メガトレンドに乗った新しい技術に関連する投資を進めたい。同時に、エコシステムに準じ、産業全体の完成度の向上にも努めたい。

具体的な奨励分野には、先端エレクトロニクスがある。国内ですでに大きなウェートを占めており、今後更なる発展が期待できる。また、機械装置産業は大小1,900の企業があり、今後重要視される医療機器も含まれる。他にも、エンジンやトランスミッションなどの輸送技術、ハラル食品を含めた食品加工技術などが奨励分野である。製造業以外にも、ロジスティクス・ホテル・観光などのサービス業は奨励分野である。

## ■投資実績

2018年第3四半期までの製造業への投資実績は、高水準だった2014年度を上回っており、今後1~2年も活発に行われるとみられる。

今後、AI・ビッグデータ・3Dプリント・IoT・自立ロボット・自動運転などインダストリー4.0の流れに乗っていききたい。これらの技術が活かされる産業分野として、例えばスマート農業がある（自動運転のトラクター、様々なセンサーを利用した効率的な種まき、ドローンを利用した農薬散布など）。

こうした新しい可能性を皆様と共に探っていききたい。投資機会を拡大させる良い機会となる。

## ■なぜマレーシアなのか

なぜマレーシアかというと、世界で最も急速に成長している東南アジアの中心に位置していることがある。

また、マレーシアには、約200の工業団地があり、そのうち18が自由貿易区である。自由貿易区の中で最も新しいのはデジタル自由貿易区だが、こうした自由貿易区では関税はかからない。

さらに、港湾設備も整備されており、東南アジアで2番目、3番目に大きな港はマレーシアにある。

最後に、マレーシアへの投資やビジネス展開を検討している企業があれば、是非、ご連絡を頂きたい。きっとお役に立てると思う。

講演後には、食品製造業が進出する際の規制情報の調査方法、ビジネスマッチングを行う上でのマレーシア側の窓口はどこか、投資インセンティブがマレーシアの強みなのか、為替相場の見通し、投資金額の伸びの要因など、様々な質問が出され、活発な質疑応答となりました。

### 【MIDA 大阪事務所】

大阪市北区梅田3-4-5 毎日インテシオ18階  
TEL: 06-6451-6661

※2017年4月、当連合会はMIDAとの間で「相互経済交流に関する覚書(MOU)」を締結しています。

(担当：三角)